計量経済 II:復習テスト1

2023年9月25日
注意: すべての質問に解答しなければ提出とは認めない.正答に修正した上で,復習テスト $1\sim8$ を(左_で)ホチキス止めし,中間試験実施日(11 月 20 日の予定)にまとめて提出すること.
1. $(x_1,x_2,x_3):=(100,101,102)$ とする.以下を求めなさい(計算機使用可). (a)階差: $\Delta x_2,\Delta x_3$
(b) 変化率: $\Delta x_2/x_1, \Delta x_3/x_2$
(c) 対数: $\ln x_1, \ln x_2, \ln x_3$
(d)対数階差: $\Delta \ln x_2, \Delta \ln x_3$

2. 関数 f(x) は 3 回微分可能とする. x=a の近傍で f(x) を近似した 3 次関数を g(x) とする. すなわち

$$g(x) := f(a) + f'(a)(x - a) + \frac{f''(a)}{2!}(x - a)^2 + \frac{f'''(a)}{3!}(x - a)^3$$

(a) g'(x), g''(x), g'''(x) を求めなさい.

(b) g(a), g'(a), g''(a), g'''(a) を求めなさい.

(c) x=0 の近傍で $f(x):=\mathrm{e}^x$ を近似した 3 次関数を g(x) とする. g(x) を求めなさい.

(d) x=0 の近傍で $f(x):=\mathrm{e}^x$ を近似した n 次関数を $g_n(x)$ とする. $n\to\infty$ として e^x を無限次の多項式で表しなさい(これを e^x のマクローリン展開という).

解答例

1. (a)

$$\Delta x_2 = 101 - 100 = 1$$

 $\Delta x_3 = 102 - 101 = 1$

(b)

$$\frac{\Delta x_2}{x_1} = \frac{1}{100} = 0.01$$
$$\frac{\Delta x_3}{x_2} = \frac{1}{101} \approx 0.0099$$

(c)

$$\ln x_1 \approx 4.60517$$

 $\ln x_2 \approx 4.61512$
 $\ln x_3 = 4.62497$

(d)

$$\Delta \ln x_2 \approx 0.00995$$
$$\Delta \ln x_3 \approx 0.00985$$

2. (a)

$$g'(x) = f'(a) + f''(a)(x - a) + \frac{f'''(a)}{2!}(x - a)^{2}$$
$$g''(x) = f''(a) + f'''(a)(x - a)$$
$$g'''(x) = f'''(a)$$

(b)

$$g(a) = f(a)$$

$$g'(a) = f'(a)$$

$$g''(a) = f''(a)$$

$$g'''(a) = f'''(a)$$

※すなわち g(.) は x = a において 3 階微分係数まで f(.) と等しい.

(c)
$$f(x)=f'(x)=f''(x)=f'''(x)=\mathrm{e}^x$$
 より $f(0)=f'(0)=f''(0)=f'''(0)=1$. したがって
$$g(x)=1+x+\frac{x^2}{2!}+\frac{x^3}{3!}$$

(d) 前問と同様に考えれば

$$g_n(x) = 1 + x + \frac{x^2}{2!} + \frac{x^3}{3!} + \dots + \frac{x^n}{n!}$$

 $n \to \infty$ とすると

$$e^x = 1 + x + \frac{x^2}{2!} + \frac{x^3}{3!} + \cdots$$

※したがってネイピア数 e は

$$e = 1 + 1 + \frac{1}{2!} + \frac{1}{3!} + \dots \approx 2.718$$